

互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、存在感のある校長会をめざして

佐賀県小中学校校長会
会長 牟田 禎一

今年度会長として、御承認いただきました神崎市立神崎中学校 牟田禎一です。

今回、64年の歴史ある佐賀県小中学校校長会会長の大役を仰せつかりました。私は、まだまだ未熟者でございますが、宮崎耕一前会長の意を引き継ぎ、本会の目的を達成し、本県教育のさらなる振興・発展に向け、任を果たして参りたいと強く思っております。どうぞよろしくお願い致します。

これからの時代は、Society5.0（超スマート社会）の実現に向けて社会の在り方自体が劇的に変化するものと思われまます。一方、少子高齢化や人口減少への転換、新型コロナウイルス感染症対策に代表される未知の課題に直面するなど、これからの社会は一層予測困難なものとなっています。

そのような状況の中で、私たち校長には、学力向上、いじめや不登校等の生徒指導上の課題、特別支援教育の充実、GIGA スクール構想の推進、働き方改革等の課題解決に向けた取組が求められています。

こうした取組を一層推進することにより、「従来の日本型学校教育」を発展させ「令和の日本型教育」の実現を図るための学校経営を目指さなければなりません。

また、来年8月には、九州各県から約900名の校長先生方を迎える「九小協佐賀大会」が控えており、牟田尚敏実行委員長を中心に準備を進めています。それに向けても佐賀県小中学校校長会は一体となって、知恵と力を結集していく必要があります。

そこで、私は、このような状況に鑑み、令和4年度の佐賀県校長会の在り様、目指すべき姿を次のキャッチフレーズで示したいと考えています。

「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、存在感のある校長会」。

「互いの尊重と協働」とは、校長は判断と決断の連続です。校長同士や教育委員会、高等学校、PTA・育友会、退職校長会等の団体などと連携することは、校長にとって非常に有益だと考えます。特に校長同士が信頼関係を築き、全校長がワンチームとなることが大切です。そのことが学校教育では非常に重要だと考えています。

「しなやかに」とは、包容的で柔軟な見方、捉え方、考え方、場合によっては大胆な軌道修正をも決断する修正力を併せ持つことであり、リーダーの資質であると思います。

「存在感」とは、信念に基づき本質を見極め、先を見通した判断力、実行力であり、現場で必要な能力であると考えます。県校長会や地区校長会などで議論することにより、明日への活力となる校長会を目指していきたいと思ひます。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響等で、例年と同じ状況ではなく、行事一つ一つをどのようにするか、決断、判断が迫られる年になります。そんな時に1人で悩まず、近隣の校長先生と共に連携したり協議したりして対応を考えていきましょう。様々な人の意見を聞くことは非常に参考になります。その為にも、県校長会は何でも相談できる、「互いの尊重と協働のもと、しなやかで存在感のある組織」として、全校長先生方の力・支えとなり、前進していきたいと考えます。多くの課題があり、厳しい状況の中でも共に進んでいきましょう。

どうぞよろしくお願い致します。